

# 海外派遣留学プログラム報告書

(報告期間：2022/9/8～2022/11/01)

## 1. 勉学の状況

ダラム大学で土木工学を専攻しており、学部3年生対象の講義を受講している。イギリスの大学は基本的に3年で学士号が取れることから、最終学年の講義を受講していることになる。そのため、最終プロジェクトを講義と並行して進めなければならず、時間の使い方が非常に難しいと感じている。講義内容も地盤工学など初めて扱うものが多いので大変苦勞している。一方で、用語がわからなくても数式などである程度理解することは可能なので、英語での苦勞は人文系の科目より受けにくいのかかもしれない。

選択科目はなく、全て必修科目であった。(留学生は多少融通が効くらしいが、あえてそのままの履修にした)

講義は

- ・レクチャー(大教室で教授が一方通行で行うもの)
- ・セミナー(10人以下の少人数、対話ベースで進めるもの)
- ・ラボ・フィールドワーク(実際に手を動かすもの)

の大きく分けて3種類がある。レクチャーは教授がハキハキと話してくれることもあり、google翻訳やDeepL等を駆使しながら、ある程度の概要を掴むことができている。

セミナーでは、拙い英語ながらもできるだけ質問などをするように心がけている。このセミナーは修士課程の学生と合同で行うので、準備段階から気合を入れて恥をかかないようにしている。また、BEng Final Project(日本で言うところの卒論)では、Supervisorのアドバイスを受けながらエネルギー消費関連のテーマを進めている。かなり時間を取られることもあり、履修したことを少し後悔しているが、実践的な内容なので力がつくと信じて少しずつ進めていけたらと思う。

初めの方は講義がわからなすぎて泣きそうになりながら通っていたが、数週間もすれば慣れることがわかった。毎日、復習・セミナーの準備・卒論の進行と、終わりの見えないタスクの量に絶望しそうになりながらもなんとか生きながらえている状態である。正直いまの状況があると8ヶ月も続くと考えたらしんどいが、それと同時にしばらく感じる事のなかった充実感を日々感じる事ができている。

## 2. 生活の状況

大学から当てがわれたカレッジ(寮)に住んでいる。寮にはイギリスをはじめ、スウェーデン、ドイツ、イタリア、アメリカ等の欧米地域はもちろんのこと、中国、台湾、香港、パキスタン、インド等のアジア地域出身の学生も多く、非常に国際性に富んでいる。また、大学院生も住んでおり、さまざまなバックグラウンドを持つ人と話す機会があり、刺激が多い毎日である。

食事も毎日3食提供される。毎晩必ずジャガイモがでたり、米が洗剤の味がするなどはじめは戸惑ったが、慣れてきてからは美味しくいただいている。

体調管理について。イギリスは空気が非常に乾燥しているので、freshers week(新入生歓迎期間のようなもの)の途中あたりからしばらく咳が止まらなくてしんどかった。また、円安の影響で、£1=170円近くまで上がることがあり、無駄遣いしないように気をつけている。ポンドが安い(£1=160弱)時にまとめて引き出し、レートが悪い時は現金を使うなど、円安の影響を最小限にとどめる工夫をしている。

ダラムは市内人口の半分以上を大学生が占めており、非常に治安が良いので変に気疲れすることもなく、過ごしやすさを感じている。世界遺産のダラム大聖堂があったりと、非常に美しい街でもある。ここでは入学式を行ったりした。

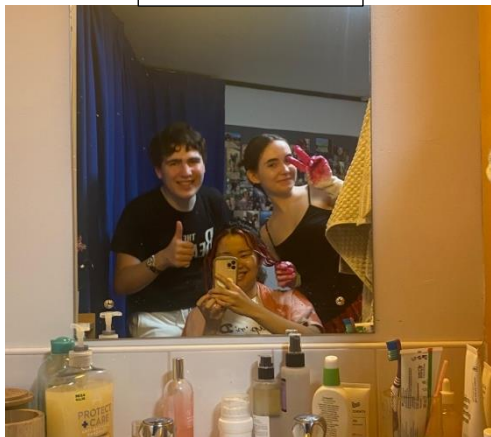
渡航して2ヶ月が経とうとしているが、現段階での満足度は非常に高く、留学してよかったと感じている。これからますます勉強が大変になるが、なんとか食らいついていきたい。



ダラム大聖堂中庭



入学式の後、寮の中庭で友達と。



友達が髪を染め直してくれました



ダラム大聖堂外観

# 海外派遣留学プログラム報告書

(報告期間：2022/11/02 ～2023/03/28 )

## 1. 勉学の状況

### ☆講義について

講義は Michalmas term に引き続き、

BEng Project

Civil Design

Environmental Engineering

Geotechnics

Structures and Geomatics

の5つを履修している。前期と比較して授業時間自体は少ないものの、内容が発展的になっている。Civil Design と BEng Project はコンタクトアワーこそ少ないものの、自宅での個人作業の量が多いので、自分を律することが苦手な私にとっては特に苦労が多い科目である。千葉大学では学科こそ理系でありながら理数科目から逃げていたので、その分のツケがここに来て回ってきている感じが否めない。そろそろ授業内容が一周するので、しっかり復習したい。

初めはわからない単語は片っ端から調べていたが、英語→日本語/日本語→英語 の二度手間になるので今はなんとなく文脈から推測し、どうしてもわからない時だけ辞書に頼るようにしている。リーディングなどが多くない代わりに、日本語でやっても理解できるか分からない式などがとにかく大量に出てくるので、英語ではない別の意味で苦労している。

### ☆施設等について

ダラム大学で驚いたことに、大学の予算がある。プロジェクトなどで必要になったソフトは学務がすぐに準備してくれ、大学のシステムを通じて無料で利用することができる。また、少しでもわからないところがあれば図書館脇の IT デスク (予約制) に駆け込めば、大体その場で解決してくれることが多い。このように、勉強に対する出費は惜しまない印象がある。

また、図書館も 24 時間営業で、学生が利用できるパソコンも多く設置しており、とてもきれいである。いつも混雑していることを除けば、まさに勉強するにはうってつけの環境である。ただし、ほとんどの階が飲食自由なので、運が悪ければ目の前の人や人がパスタなどを食べ始めたこともあり、匂いで気が散ることがある。全体的に施設満足度は高い。

### ☆切り替え

イギリスに来る前は、「欧米の大学生は毎日死ぬほど勉強している」と知り合いに脅されていて、ビビっていた。確かに皆真面目ではあるし、勉強に対する熱意も高めである。しかし、パーティや飲み、クラブの文化が強い分、意外と平日の夜からはっちゃけている人も多い。例えば、ラボ (実験) のパートナーは毎回二日酔いでラボに来ていた。寮内でも平日深夜までパーティをしている音が聞こえてきたりする。もちろん毎日パーティーしている人だけではないが、オンオフの切り替えが上手な人が多いのだろうと感じた。

## 2. 生活の状況

### ☆人間関係

最初こそは友達作りに苦労したが、寮の利点を活かして毎日顔を合わせるうちに次第に仲良くなっていくことができた。夜に映画を見たり、週末に散歩に出かけたりなど、楽しく生活できている。また、寮のイベントが活発なので Winter ball などのイベントにも一緒に行ったりしている。親しい友人のうちに、「THE 情報屋」みたいな子がいるため、話題には事欠かない。正直、ゴシップしている時が一番英語力が上がっている気がする。学校生活では意外と英語を喋る機会がないため、寮に入れて本当によかったと思う。ホームシックにならずに済んでいるのも、寮内で安定したコミュニティがあるおかげだと思う。寮で仲良くしてくれている友達には本当に感謝している。

☆休日の過ごし方。

金曜夜や週末は、ダラム大学の特徴でもあるカレッジ制を活かして、カレッジ間のバーをめぐる bar crawl が頻繁に行われる。各カレッジ（寮）ごとにオリジナルのドリンクがあったり、バーの特徴が異なっていたりするので、非常に面白い。個人的な一押しは University College のバーである。世界遺産であるダラム城はカレッジ（寮）になっており、そのため、もちろんバーも併設されている。少し中に入り組んでいるバーは、なんとというか、雰囲気が最高だった。

☆課外活動

サークルで、ラグビーと Caledonian Dance Society(通称 CalSoc に)入っている。両方とも完全初心者だが、カレッジレベルだと良い意味で緩いので適度な運動になっている。Caledonian Dance はスコテッシュダンスで、ペアやグループになって踊るものである。ラグビーは週一、1時間、Calsoc は週一回、1時間半ほど緩く活動している。

☆食事について。

寮で食事が出るので、あまり外食することはないが、たまに市内のカフェに行ったりはする。学生中心の街であることもあってか、小さな町なのにたくさんのおしゃれなカフェがあって、カフェ巡りするのは楽しい。値段も体感日本の～1.5 倍程度と、そこまで高いわけではなく、助かっている。本場のアフタヌーンティーはサービス含めて最高だった。帰国までにもっと試したい。

☆その他。

最近英語力の伸びに限界が見えてきているので、悩んでいる。特に語彙力が圧倒的に欠けているので、分からない単語はできるだけその場でスマホにメモして、寝る前に調べて、一つのノートにまとめている。途中で中休みして日本語の動画などを覗いてしまっていた時期もあったが、今は極力英語のみの環境を作るように心がけている。あまりストイックになるのは合っていないので、緩く続けていけたらと思っている。

最後に、時間が過ぎるのが本当に早い。主に食の面で日本が恋しくなることはあるが、最近はおと数ヶ月でイギリスを去るのが惜しいと思えるくらい充実した日々を過ごしている。渡航前はさまざまな葛藤があったが、来てよかったと心から思っている。残り少ない時間を大切に過ごしていきたい。



寮内のイベントにて



Afternoon tea



何人かで集まって映画をみたり

# 海外派遣留学プログラム報告書

(報告期間：2023/3/29～2023/6/29)

## 1. 勉学の状況

三月末に **Civil Design** の提出を終え、4月末に **BEngineering Project** のレポートの提出と口頭試験を終えた後、5月上旬から中旬にかけてそのほかの教科の試験があった。試験はオンラインが2個と対面が1個あった。オンライン試験は解答時間が3時間に設定されており、対面の試験は2時間だった。オンラインの方はいわゆる「持ち込み可」であるため、難易度は高めに設定されていたと感じた。いくらオンラインがあったとはいえ、私は昔から計画的に試験勉強するのが苦手だったため、試験範囲が丸々1年分のテストが3つあるのはとても苦勞した。学期中は授業自体の進め方や講義自体の難易度は正直、千葉大学とあまり変わらないと感じていた。しかし、試験問題は全体的に難易度が高く、本質を完全に理解しているかを問うてくるものが多かった。加えて計算量も多く、最後の最後で完全に心をへし折られてしまった…。

そしてこれらの試験3つのうち2つは、採点ボイコットで成績が返ってこないというオチがある。ダラム大学から公式に発行された成績表には成績が **In progress** になっており、これが公式の成績証明書なので、私の成績の一部は一生闇の中なのかもしれない…。最終的に、5科目中3科目の成績は返ってきたので、それでも過半数が採点されていない文系学部の友達よりは幾分か被害は少なかった模様である。

この採点ボイコットに関しては、ダラム大学が悪いわけではなく、英国全土の大学で見られる現象である。UCU (University and Colleges Union：教員中心の労働組合みたいなもの)に所属している教職員が賃上げを求めて声を上げている状態であり、採点ボイコット以外にも授業ストライキがあったりなどした。理系は被害が少ない方らしく、私は年間を通して3回程度しか休みにならなかった。一方で **Law** 専攻や **Archeology** 専攻の友達は半分以上が休講の週があったりなどと、結構被害を受けていた。教職員のストライキなどが活発になり、影響が出始めたのは今年度かららしく、来年度以降どのような動向になるのかは定かではない。

## 2. 生活の状況

イギリス人やヨーロッパ系の子はとにかく切り替えがうまいように感じた。寮の周りの子はテスト期間には勉強はしつつも、散歩したり外で勉強したりと部屋に籠りっぱなしの友達ほとんどいなかった。図書館で勉強していても、「散歩に行こうよ！」や「天気がいいから外でやろう！」などと積極的に外に連れ出してくれた。テスト期間に外で勉強しているのはヨーロッパ系が多く、部屋にこもって一人で勉強する日本や中国などとのプチ文化の違いを感じた。



寮での最後のイベントとして、**Summer Ball**があった。試験が全て終わった後の6月中旬に寮近くのホテルで行われた。ブラックタイ（背広やドレスなど正装）イベントで、皆結構気合を入れて準備する。食事付きのオプションもあったが、私と友達は食事なしの方を選択した。

会場には回転式の絶叫マシンやゴーカート、ピザやアイスクリーム、シャンパンなど盛り上げるための工夫がされた配置だった。会場から寮までのバスは夜中2時まで出ており、皆終バスでも歌ったり寮についてもロビーでガヤガヤしたりとパーティー文化の強さを垣間見た気がする。次の日は言わずもがな昼まで爆睡した。

個人では、寮で最初にできた台湾人の友達に誘われてアイルランドに行った。ニューキャッスル空港深夜便で、ダブリンには深夜1時すぎごろ到着した。ダブリンはホテル代が非常に高く、初日はあえて深夜に出て空港泊する形をとった。空港内は同じことを考えている人が一杯いて、人があちこちで寝ていた。スリなどもなく、わりかし安全に一晩過ごすことができた。良い経験ができたとは言っても、一睡もできなかったのでできればもう二度とやりたくない。

観光としては、**Cliffs of Moher, The Guinness factory, Trinity college library** など王道なところから**The Irish whisky museum** など穴場スポットまでいろいろなところに行けた。ダブリンは街全体が芸術的で、建物などは落書きまみれであったりしても不思議とそれがいい雰囲気で、なんだか映画がそのまま現実になったような街並みだった。街歩きをしているだけでとても楽しかった。ただ、メイン通りから一本外れた道に入るだけで少し不気味な雰囲気のところもあったので、夜遅くに出歩かない、一人で外に出ないなど、安全には気をつけていた。

留学を振り返っての感想としては、月並みではあるが行って本当によかったと思う。留学中に知り合った友達とは帰国してからもメッセージや電話で定期的に話しており、9月には2人が日本に遊びにきてくれる予定である。友達がたくさんできた他にも、欧州との文化の違いや大学生活の違いを実感するなど、インターネットの情報だけでは得られない貴重な経験をすることができた。異文化に馴染むのは難しいが、だからこそ大学生という時期に経験することができて本当によかったと思う。渡航する前は自分なんかが行っても良いのか悩んだものだが、もう一度やり直せるなら是非戻りたいと思えるほど充実した日々だった。留学を後押ししてくれた両親、最初から最後までサポートしてくれた留学生課の職員の方々、半端な時期に帰ってくることになっても受け入れてくださった研究室の先生方をはじめとして、留学中に関わってくれた全ての方々に感謝の気持ちでいっぱいです。留学した経験を活かせるように、精進していきたいと思っています。改めまして、今回私の留学に関わってくださった皆様、ありがとうございました。



1;Summer ball にて。 2:最後の formal Dinner 後に。 3.テスト期間の気分転換の散歩  
 4,寮の bar にて。 5,ヨーロッパで最悪との称号を持つクラブ Klute にて。 6,Guinness Factory  
 7, Cliffs of Mohre にて。 8,Durham Cathedral にて。